

# 「天草市楠浦墜落の米軍機と本渡（楠浦）空襲」

くまもと戦争遺跡・文化遺産ネットワーク 高谷和生

## 1 墜落機体及び墜落機搭乗員

- 墜落機体：North American「P 5 1」Mustang
- 搭乗員：CHAELES. L. BURMAN中尉。楠浦村字実ヶ浦（さねがうら）共同墓地埋葬
- 所属部隊：第5航空軍第5戦闘機集団第35戦闘機群団第40戦隊
- 機体番号：44-63335
- 墜落日：1945年8月14日午前11時頃
- 墜落地：熊本県天草郡楠浦村（現・天草市楠浦町：くすうら）大字舟津（ふなつ）海岸沖  
※ POW研究会「本土空襲の墜落米軍機と捕虜飛行士」より

## 2 墜落のP 5 1 マスタング機

**P 5 1 マスタング**は「第2次世界大戦中に開発された米軍戦闘機で、最も完成度の高い機種とされる。全長9.8メートル、全幅11.3メートルのコンパクトな機体に、離昇出力1490馬力のパッカード・マーリン液冷V型12気筒エンジンを搭載、最大で時速703キロというレシプロエンジンでは極限のスピードを実現した。空気抵抗の小さい層流翼を採用、空力的に洗練されたボディで、さほどパワーの大きくないエンジンにもかかわらず、高速と強い上昇力、さらに最大3700キロという長い航続距離を実現した。戦略爆撃機の長距離護衛からロケット弾を搭載した地上攻撃まで幅広い任務をこなし、各型合計でおよそ14800機が生産された」 「時事通信社の米空軍提供」より

沖縄移駐の陸軍部隊に**装備された機体はD型機**で、これは高高度性能向上のためロールスロイス社V-1650-7エンジンに転換したもので、併せて課題となっていた後方視界について、コックピット後部胴体を低くし、新たにホーカータイプーンで採用されていた**枠の無い水滴型キャノピー（バブルキャノピー）**を取りつけた機体である。また**装備は12.7 mm機関銃を増設し、計6丁の機関銃を主翼に装備していた**。また**対地攻撃用HVARロケット弾も翼下に装備する**。



写真1 欧州戦線のP 5 1 D型機      写真2 フィリピン諸島での英連邦軍機・P 5 1 D型機

## 3 第5戦闘機集団第35戦闘機群団第40戦隊と墜落機

米軍が沖縄に上陸して以降、日本軍の組織的抵抗が終わる前から米軍側は旧日本軍飛行場を直ちに整備し、6月には本格的に米陸軍極東航空軍が移駐を開始した。

極東航空軍は、第5・7航空軍から成り、所有する戦闘機のタイプ別（P 3 8・P 4 7・P 5 1）に8個群団を構成していた。P 5 1で編成される1個戦隊の定数は○機であり、墜落機は「**第5航空軍第5戦闘機集団第35戦闘機群団第40戦隊**」所属機である。

この第40戦隊の8月戦闘報告では、攻撃地点は鹿児島県油津、宮崎県富高、熊本県八代、鹿児島県栗野」等で、**G P爆弾及び機銃掃射による攻撃、8月14日は「Honda（本渡か？）海へのG P爆弾と6600発の機銃掃射」**が行われた。

また8月14日の項には、**該当機が「対空砲火を受けて水面へ墜落」**したと記載されている。

所属部隊	機種	基地	
第43爆撃機群団	第63戦隊	重 B-24	伊江島
	第64戦隊		
	第65戦隊		
	第403戦隊		
第5爆撃機集団	第71戦隊	中 B-25	沖縄
	第405戦隊		
	第822戦隊		
	第823戦隊		
第345爆撃機群団	第498戦隊	中 B-25	伊江島
	第499戦隊		
	第500戦隊		
	第501戦隊		
第3爆撃機群団	第8戦隊	軽 A-26 A-20	沖縄
	第13戦隊		
	第89戦隊		
	第90戦隊		
第8戦闘機群団	第35戦隊	P-38	伊江島
	第36戦隊		
第35戦闘機群団	第80戦隊	P-51	沖縄
	第39戦隊		
	第40戦隊		
	第41戦隊		
第58戦闘機群団	第105戦隊	P-47	沖縄
	第310戦隊		
	第311戦隊		
	第340戦隊		
第348戦闘機群団	第341戦隊	P-51	伊江島
	第342戦隊		
	第343戦隊		
	第460戦隊		
夜間戦闘機	第418夜間戦闘機戦隊	P-61	嘉手納
夜間戦闘機	第421夜間戦闘機戦隊	P-61	伊江島
写真偵察	第6偵察群団	F-5, F-7	沖縄
偵察	第71偵察群団	B-25	伊江島

表1 第5航空軍の編成 1945年8月1日段階 工藤洋三氏作成

(1) 国立国会図書館資料

資料②: 国立国会図書館デジタルコレクション  
 「Operations against Kyushu targets during July and August 1945」より  
<https://dl.ndl.go.jp/info:ndljp/pid/4009325> 54コマ目、55コマ目

F.F.C. 40th Op  
P-51P 第40戦隊  
DISTRIBUTION - SPECIAL AGENTS

SPECIFIC TARGET				GENERAL TARGET			
DATE	REPORT	TIME	RESULTS	% SPECIFIED	FULLY	% GENERAL	TOTAL
				COUSE	ATTAINED	OTHER	
Jul 5	40th	16	ammo	Kyushu-4 A/C (George) dest. 8335 (50) expended.			
Jul 16	"	4	ammo	Itanaka-6 barges damaged, 3500 (50) expended.			
Jul 16	"	4	ammo	Kanabata Kanawa-2 barges, 2 SDE damaged, 3500 (50) expended, 1 train dest.			
Jul 17	"	15	3.75	GP bomb 1 lugger damaged, 1500 (50) expended.			
Jul 18	"	7	3.50	GP bomb 1 lugger damaged.			
Jul 28	"	4	ammo	Kushikani-9 trains dest. 5200 (50) expended.			
Jul 29	"	14	ammo	Haganaki-16 trains dest. 5730 (50) expended.			
Jul 31	"	14	3.5	GP bomb-Dynaco report.			
Aug 5	"	15	3.9	Frsg - Itanaka - 2 SDE damaged.			
Aug 5	"	17	ammo	Kurino-10 trains dest. 4515 (50) expended.			
Aug 7	"	14	3.5	GP bomb Takahiro - 1 heavy bridge dest. 5 trains dest. 1975 (50) expended.			
Aug 12	"	4	ammo	Akurata - 2 SD damaged, 6190 expended.			
Aug 12	"	3	ammo	Tonata - 1 train, 3 vehicles dest. 4975 expended.			
Aug 14	"	16	4	GP bomb SE of Itanaka - 4 SD damaged, 6600 expended.			
Aug 14	"			147 sorties; 25.25 tons of bombs; 52160 ammo expended.			

40th Op - P-51s  
第40戦隊

SORTSSE & TOT	DATE	ENEMY SHIPPING & SMALL CRAFT			ROLES	A/C DEST AIR	AMMUNITION EXPENDED	BOMBERS BE & HY		TRAINS	VEHICLES
		SHIP	FOOD SHIP	BOAT				DEST	LOAD		
425-16-Kyushu	July 5					4 George	8,335				
436-4-Itanaka	16			6 Barges			3,500			1	
437-4-Kanabata	16			2 Barges			3,500				
				2 SDE	300						
440-15-Kanawa-Shima	17			1 Trn	1.75		1,500			9	
441-7-Kanawa-Shima	17			1 Lug	3.50		5,000			16	
444-9-Kushikani	28						5,730				
450-16-Haganaki	29										
451-14-Haganaki	29			2 Dred	3.50						
452-14-Haganaki	29			1,000	3.50						
459-15-Iki Shima	Aug 7									10	54
461-17-Kurino	5						4,515	1 Hy			
462-14-Takahiro	7						1,975				
463-14-Akurata	12			2 SDE	300		6,190			1	3
467-3-Tonata	12			4 SDE	600		4,975				
473-4-Itanaka Bordo	14						6,600				
147 Total				10 (10 SDE craft)	3.5	4	52,160		1	42	3

表2 第40戦隊戦闘報告(抜粋)  
 外田洋氏提供・国立国会図書館デジタルコレクション所蔵

表3 戦闘機・P51機の損失ロスト報告(抜粋)  
 外田洋氏提供・国立国会図書館デジタルコレクション所蔵

資料③: 国立国会図書館デジタルコレクション  
 「Fifth Air Force Statistical Summary, August 1945」 ACCIDENT REPORT より  
<https://dl.ndl.go.jp/info:ndljp/pid/4002463> 13コマ目

DATE	TYPE	SERIAL NUMBER	SQ	REMARKS	CL or REF
6 Aug	P-51K-1	44-11415	340th	Landing accident, made normal approach, plane bounced, pilot had no rudder control and plane left runway and crashed into ditch.	CL
6 Aug	P-51D-15	44-14956	341st	Coculant system failure.	CL
8 Aug	P-51K-10	44-12043	342nd	Enemy bombing.	CL
8 Aug	P-51K-10	44-12047	460th	Enemy bombing.	CL
8 Aug	P-51K-10	44-12104	460th	Enemy bombing.	CL
8 Aug	P-51D-20	44-63318	342nd	Enemy bombing.	CL
8 Aug	P-51D-20	44-63348	460th	Enemy bombing.	CL
8 Aug	P-51D-20	44-63568	460th	Enemy bombing.	CL
8 Aug	P-51D-20	44-63859	39th	Noticed wings were buckled after flight.	Rep
8 Aug	P-51D-20	44-64025	460th	Enemy bombing.	CL
8 Aug	P-51D-20	44-64041	460th	Enemy bombing.	CL
8 Aug	P-51D-20	44-72312	460th	Enemy bombing.	CL
8 Aug	P-51D-20	44-72473	342nd	Enemy bombing.	CL
8 Aug	P-51D-25	44-73803	342nd	Enemy bombing.	Rep
9 Aug	P-51D-15	44-15248	341st	Landing accident. Tail wheel tire blew out, plane cartwheeled on right wing.	Rep
11 Aug	P-51D-15	44-15008	460th	Unknown. Lt set radio contact was heard 1200/1, giving position as 131 40 E 31 50 N.	CL
11 Aug	P-51D-20	44-63294	460th	Same as above remark.	CL
11 Aug	P-51D-20	44-64120	40th	Pilot bailed out. Cause undetermined, pilot rescued by Gnt.	CL
14 Aug 8月14日	P-51D-20	44-63335	40th	Plane hit by enemy A/A while making strafing pass on shipping. Plane burst into flame and went into water.	CL
14 Aug	P-51D-25	44-73792	340th	Plane hit by enemy ack-ack.	Rep
15 Aug	P-51L-10	44-121201	460th	Landing accident. Pilot lost control of plane on his final approach, crashed into a L-5 which was parked on east side of runway. L-5 was assigned to 301st Ftr. Sq.	CL

第40戦隊

対空砲火を受け水面へ墜落

## (2) 墜落機資料

- 墜落地点に隣接した共有管理地「五色島（こしきじま）」の松の木に、墜落機破片が突き刺さり、その後この資料を楠浦コミュニティセンター（旧楠浦公民館）で保管されている。
- 金属片は「リベット留めジュラルミン製部材片」で、約10cm方形。表面には焼け焦げた跡やめくれ破砕した状態が見え、墜落時の衝撃の激しさを感じさせる。部材は平面状で、端部形状も確認できるが、機体部位の特定には結びつかない。
- 本資料を公民館に寄贈した方及び経緯を調査中である。



写真8・9・10「五色島の松」に刺さった墜落機ジュラルミン片 楠浦コミュニティセンター所蔵

## 4 証言「墜落地点及び埋葬された米兵、米機の状況」

～天草市楠浦町船津海岸沖の五色島地先に墜落～

### (1) 証言1

- 澤田道興さん（さわだみちおき・〇歳）宗心寺住職：天草市楠浦町 2 / 17 調査
- 亡くなった先代住職「澤田道貞」師よりの伝聞である。「米軍機の遺体は、蛭子の浜（えびすのはま）海岸にあげ、その後村の縁故者のいない者対象の共同墓地・向山（むこうやま）実ヶ浦（さんねがうら）に埋葬した」「翌々年、進駐軍将兵3人が訪れた際には、仏式の回向の儀式として、埋葬地を結界し蝋燭や香花をたむけお経をあげると米兵は感動した」「米兵は当初シャベルで掘ったが、遺体が傷つかないようにほとんど素手で丁寧にあつかった」
- 向山のほぼ山頂近くの実ヶ浦共同墓地は、訪れる者もなく、場所もはっきりしない。

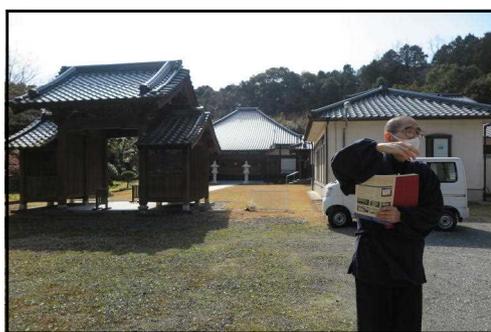


写真3 証言された澤田道興さんと宗心寺楼門



写真4 共同墓地のあった向山 ※山頂付近のくびれた場所付近に墓地は所在

### (2) 証言2

- 平嶋夏男さん（ひらしまなつお・〇歳）元楠浦公民館長：楠浦町 2 / 17 調査
- 墜落機を目撃した「船津集落（墜落機はこの集落と五色島の間、遠浅の海に墜落・水没）」の「故大平トミ子さん」によれば「佐伊津（さいつ・天草市本渡・墜落地点まで約6 km）の天草海軍航空隊からの高射砲か、志柿港（しがき・天草市志柿・墜落地点まで約5 km）に停泊していた艦船の機関銃に撃たれて、瀬戸海峡（上島と下島の間）の間をふらふらして落ちてきた」「機体は北から飛んできて、五色島の手前の海に落ちた」「墜落時の衝撃でクルッと回り、機首が北東方向を向いた」「煙は吐いていなかった」と聞いている。
- 平嶋さんの小学生時代に「機体は、五色島のそばにあり、干潮時には機体操縦席が頭を出していた」という。ただいつの間にか機体は無くなった。

- 当時「造船所には島内各地から工員が集まっており、機銃掃射で亡くなった二名の方々の名前・没日等を調べたが解らなかった」。新聞報道等を通して、ご遺族を探してほしい。



写真5 証言者の平嶋夏男さん  
 写真6 向山の実ヶ浦共同墓地の方向を示す平嶋夏男さん  
 写真7 五色島の全景 ※墜落地点は島左側地先の沖合である。

### (3) 証言3

- 大平俊勝さん（おおひらとしかつ・〇歳）当時5歳・楠浦町 4 / 29 調査
- 墜落地点は、五色島と船津港の間で、水深が深かったことから、船津の漁師が網を打って機体は蛭子の浜（えびすのはま）海岸に引きあげた。また、乗員遺体も操縦席から網であげた。
- 墜落機には「操縦席に遺体はそのままあり、大きな損傷はなかった」と言う。
- 墜落時に港停泊の船舶のマストに機体を引っ掛け「水平尾翼」が現地に落下した。その部品は近くの防空壕内に置かれていたが、鉄材として売られた。
- 進駐軍が遺体を引き取りにきた時、その様子を見に行った。米兵は4～5人おり、「村長をはじめ村幹部は10名ほどおり、紋付き袴の姿で対応した」、「実ヶ浦（さんねがうら）の無縁墓から遺体を掘り起こし、米兵は担架に乗せられ、里道を通り村の巡査の家へ一旦運ばれた」
- 「楠浦の熊本造船所への機銃掃射は、計4回ほどあった」という。



写真8 証言者の大平俊勝（左）さんと平嶋夏男（右）さん  
 写真9 墜落地点を指さす大平俊勝さん ※墜落地点は、堤防地先の深度の深い場所に完全水没

## 5 熊本造船所と空襲資料

### (1) 熊本造船所

- 天草郡楠浦村掛場に、「1941（昭和16）年、株式会社熊本造船所が立地した。当初は、八代で開所予定であったが、肥州窯業株式会社及び南九州窯業株式会社の土地を買収し、塩浜跡地などを含め海岸を埋め立て、翌年工場用地が竣工した」「**(株)熊本造船所大門工場は、昭和18年に国から軍需用木造船建設の指定**を受けた。従業員は、最盛期には600人を越えた」という。『楠浦町誌』より
- 「木造船会社としては全国の七大造船所の一つに数えられるほど大規模なものであった。**150～300トンを建造する造船台5棟**があった。『大凡荘夜話』より
- 熊本造船所は「昭和17年7月頃、建設に着手した」「**木造輸送船**をつくった国策会社」であった。
- 熊本造船所で建造された木造船残骸が現地海岸に残っている。
- 大平俊勝さんと平嶋夏男さんのこれまでの聞き取りでは、**熊本造船所で亡くなった二名は、機銃掃射によるもので「五和町御領出身の男性」と「天草圏外出身の男性」**であったと言う。
- 大戦中、天草島内では戦時「木造船」が多量に建造され、御領では「エンカクセンガタ」と呼んでいた。『五和町の民俗 聞き書集』より



写真10 熊本造船所初の進水式 『大凡荘夜話』より  
 写真11 造船所跡に遺棄された木造船の残骸  
 写真12 現地に残る熊本造船所正門

## (2) 空襲資料

- 本渡歴史民俗資料館には、「楠浦の熊本造船所への空襲で被弾したベッド板」が保管されている。全長120cm、幅12cm、厚さ20mmの広葉樹系材である。資料番号は1696番、寄贈者は天草市本渡の古賀氏である。



写真13・14・15 機銃掃射で被弾したベッド材 本渡歴史民俗資料館所蔵  
 ※板材上の機銃弾は「米軍12.7mm弾頭」

## 6 天草海軍航空隊

### (1) 天草海軍航空隊の概要

- 天草市佐伊津に所在する。「佐伊津・御領」飛行場の別称があり、水上機専用の飛行場である。
- 旧逓信省天草地方航空機乗員養成所（海軍系）として、開所準備が完了したところで、全施設を海軍が接收。昭和19年3月に第12連合航空隊博多海軍航空隊天草分遣隊として当初は整備教育隊として発足したが、その後は水上機操縦の教育も行った。昭和17年頃より地元中学

生や住民の勤労働員、徴用された朝鮮の人々も建設に投入された。

- その後**昭和20年3月1日、天草海軍航空隊として独立、第5航空艦隊第12連合航空戦隊に編入**。保有機は米軍への引渡目録によれば九三式水上中間練習機36基、九四式水上偵察機3機、九五式水上偵察機15機、零式水上観測機7機、二式水上戦闘機3機の計64機であった。5月5日練習航空隊の指定を解き、**第5航空艦隊第12航空戦隊の所属**となった。
- 昭和20年の沖縄戦においては第一次攻撃隊が5月24日2機、第二次攻撃隊が6月21日に5機、7月3日に1機の零式水上観測機での特攻作戦を実施し14人が戦死されている。本部跡の高台には、沖縄作戦で亡くなった隊員の「特攻慰霊碑」が戦後まもなく結成された「天空会」により1973（昭和48）年に建立されている。
- 練兵場跡地は、その規模を保ちながらそのまま新制中学校である旧佐伊津中学校のグラウンドとして使用され、堤防海側には水上機の搬出入に利用した幅60m×奥行30mの「斜路（スリップ）」が半壊して遺存。また、北側凝灰岩崖面には、12基の横穴格納壕が現存しており、それらの一部は内部で連結され、コンクリート打設壕も良好に遺存する。
- 本渡歴史民俗資料館には天草海軍航空隊展示コーナーが常設され、天空会会誌、手紙、航空時計、練兵場跡からの出土品、椅子、伝「高射砲薬筒」二種、零式艦上観測機後部座席用風防が展示されている。



図1 天草海軍航空基地復元図

写真16 天草海軍航空隊集合写真 戦闘指揮所前に集合した搭乗員と零式水上偵察機

写真17 水上機の滑走台側面部

写真18 旧天草海軍航空隊跡に建立された「慰霊碑」

## (2) 天草海軍航空隊の防空

- 本渡歴史民俗資料館には、伝「高射砲」二種が寄贈されている。但し径105耗であることから、「榴弾砲薬筒・薬莖」と想定できる。
- 敗戦後に米軍に提出された『天草海軍航空隊 引渡目録・引継目録』では、九六式二五耗単装機関砲六門、同連装機関砲三門、二〇耗機銃六門、九三式一三耗単装機関銃六門、七、七耗機関銃四十六門と記載されている。
- 天草海軍航空隊の対空陣地は「九六式二五耗単装・連装機関砲」が「三群・12門」、「九三式一三耗単装機関銃」が「二群・六門」と記載されている。
- 空襲した米軍機に応戦を行ったと思われる天草海軍航空隊基地の対空状況・交戦記録を調査中である。

